

高石市教育委員会定例会会議録

(令和元年 8 月定例会)

開会及び閉会の年月日時

開 会	令和元年 8 月 7 日午後 3 時 30 分
閉 会	令和元年 8 月 7 日午後 6 時 35 分

会議に出席した者の職及び氏名

委 員	教 育 長 : 木 寄 茂 巳 委 員 : 西 中 隆 委 員 : 佐 野 慶 子 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一
事務局職員	教 育 部 長 : 細 越 浩 嗣 教 育 部 次 長 : 神 志 那 隆 教 育 総 務 課 長 : 西 川 浩 二 学 校 教 育 課 長 : 松 田 訓 一 学 校 教 育 課 参 事 : 山 崎 陽 子 学 校 教 育 課 長 代 理 兼 人 権 教 育 推 進 室 長 : 菅 原 庸 晴 教 育 研 究 セ ン タ ー 所 長 : 杉 原 敦 史 学 校 教 育 課 主 幹 : 黒 井 将 典 学 校 教 育 課 主 幹 兼 係 長 : 長 山 浩 二 学 校 教 育 課 主 幹 : 峯 上 寿 仁 学 校 教 育 課 主 幹 : 矢 野 恵 学 校 教 育 課 主 幹 : 岡 崎 有 香

議題及び議事の要旨及び議決事項

・ 第 2 部 議案第 1 号 令和 2 年度使用高石市立小学校教科用図書採択について

学校教育課長	<p>令和 2 年度使用高石市立小学校教科用図書採択についてであるが、これは令和 2 年度に高石市の児童が使用する教科用図書についてご採択をいただきたく、教育委員会の議決を求めるものである。</p> <p>小学校については、令和 2 年度に義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行令第 15 条第 1 項により示されておる前回採択の教科用図書の試用期間を経過している。それに伴い、本市においても、令和 2 年度小学校使用教科用図書について採択を必要としている。</p> <p>また、今回は学習指導要領の改訂に合わせ、新学習指導要領で求められておる資質・能力、カリキュラムマネジメント、主体的・対話的で深い学びの 3 つの観点にも照らし合わせ、適切な教科書を採択することが重要であると考えている。</p> <p>つきましては、十分ご審議を賜りまして教科用図書の採択を決定していただきたく、お願いするものである。</p>
木寄教育長	<p>各委員の先生には、教育委員会学校教育課並びに高石市立教育研究センターに教科用図書の見本本が配架されて以来、各々研究し、またこれまで理解を深めるための準備をしていただき、まことにありがたく思う。審議に当たり、委員の皆様と意見を交わしながら採択を決定していきたいと思う。</p>

	<p>それでは、まず、選定に至る経過の説明を事務局よりお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>それでは、選定に至る経過の説明をさせていただきます。</p> <p>高石市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則に基づき、本年4月より教科用図書の採択事務に取りかかったところである。小・中学校校長2名、保護者2名、教育委員会事務局2名から成る第1回選定委員会を5月28日に開催した。</p> <p>また、2市1町で5月19日に、2市1町教科用図書選定資料作成委員会及び調査委員会を開催し、教科用図書採択に係る調査資料の作成に取りかかり、約1カ月半の調査を経て報告書をまとめていただいた。</p> <p>なお、2市1町教科用図書選定資料作成委員会は、本市と泉大津市、忠岡町の2市1町で設置しており、構成としては、選定資料作成委員に2市1町の小学校教頭を任命し、選定資料作成のための調査員には、同じく2市1町の小学校の教諭を任命した。</p> <p>7月2日に、2市1町で令和2年度使用教科用図書選定資料報告会を開催しまして、教科用図書選定資料作成委員会の調査に基づき作成された報告書の説明を受けるとともに、第2回選定委員会を開催した。その後、第3回選定委員会を7月8日に開催し、選定資料報告会と前回の話し合いをもとに検討したところである。</p>
木寄教育長	<p>それでは、教科書展示会の様子について報告をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>法令に基づいて、高石市立教育研究センターで令和元年6月10日から同じく元年7月18日まで教科書展示会を行った。高石市内から10名、高石市外から4名の方々が閲覧に来られた。頂戴した意見については、既に教育委員にごらんいただいているが、英語や社会等を中心に多くの意見を頂戴した。いただいた意見を念頭に置き、本日の採択に臨んでいただきたい。</p> <p>本日は、各委員からの質疑等について、選定委員である私と選定委員会のメンバーである選定委員長の教育部長より選定委員会の意見を教育委員会に報告いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
木寄教育長	<p>教科書採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び高石市教育委員会通則第2条第7号の規定により、本市の児童・生徒の健全な育成に資するため、教育委員会といたしましても慎重な議論をお願いし、適正な教科書を採択するという重大な使命が課されている。委員各位におかれても、今日まで研究を進めていただいた。本日は、さらに選定委員会からの報告も参考にしながら、慎重に審議を進めてまいりたいと考えておりますが、委員の皆様方、それでよろしゅうございますか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>小学校の国語についてのご審議を行う。</p>
教育部長	<p>小学校の国語についての各社の特徴ですが、まず、東京書籍であるが、東京書籍の特徴としては、単元で育てたい資質・能力を言葉の力として明示し、主体的、対話的で深い学びを実現できるスリーステップ構成で確実に身につけるように工夫している。</p> <p>例えば配布させていただいている6年生の東京書籍の教科書の6ページ、7ページ、8ページを見ていただけたらと思う。</p> <p>6ページ、7ページ、8ページはちょうど見開きになっているが、ここの中でまず6年で学習する言葉の力という部分を全てまとめているというのが特徴で、それに基づいて、16ページをあけていただきま</p>

	<p>すと、これは朗読で表現しようというそういう単元で、言葉の力、聞き手に伝わるように朗読をするという、そういう先ほどの6年でつけた力というのがこういう形で単元ごとに示されているというのが特徴である。</p> <p>続きまして、学校図書についてである。</p> <p>学校図書は、対話と読みを深めるための言語活動を通して、児童みずから国語を学ぶ楽しさを実感できる工夫がなされているというふうに考える。あわせて、論理的、感性的思考を育てる教材で確かな言葉の力を保障している。</p> <p>これについても、学校図書の6年生の上の14ページと15ページを見ていただくと、先ほど説明した対話という部分ですが、14ページでいうと、子供たちが言葉の投げかけをずっと本当の授業をやっているような形で話し合いをしているという。こういった形で男の子と女の子がそういうふうな疑問を持ちながら、周りの子が発表していると、そういうふうな流れがほかの単元にもずっとつながっているというのが特徴になっている。</p> <p>続いて、教育出版についてである。</p> <p>教育出版は、児童に確かな言葉の力と考える力を育むための工夫がなされている。見通しを持った主体的な学びのため、目標と学習課程を明確にしているというのが特徴である。言葉という部分とか、確かめよう、考えよう、深めよう、広げようというような、そういうふうな何を学習するのかというところが明確に示されながら単元が構成されているというのが特徴である。</p> <p>続いて、光村図書についてである。</p> <p>光村図書につきましては、見通しを持って学び、学んだことを確認できるように目標と振り返りを明示している。巻末に学年全体の学習を一覧できる折り込みページを設けているというのが特徴で、6年生の教科書の30、31ページをごらんいただきたい。</p> <p>捉えよう、深めよう、まとめよう、広げようというそういう内容で大体学習の見通しというのが示されているというのが、光村図書の大きな特徴となっている。</p>
西中委員	<p>各社の教科書とも、新しい教育課程、それに基づく、主体的に子供たちが学習するという、そういう構成にはなっているわけであるが、構成の仕方ですべての各社あるわけだが、特に特徴的な教科書について、あれば、ご教示いただきたい。</p>
学校教育課長	<p>東京書籍や光村図書では、単元ごとに見開きで扉のページがあり、指導する目標や児童につけたい力がわかりやすく明示されている。</p> <p>また、教育出版は、巻頭部分で年間の流れがわかるようになっており、学ぶことというのが系統立てて、またそれをさらにもう少し見やすくした形で、言語、漢字の広場、文化、読書というように設定させており、非常にわかりやすい構成となっている。</p> <p>また、学校図書は、学年の巻頭部分に、各学年でつけたい力というコーナーがある。これも学校図書の6年の上にあるように、こちらのほうが巻頭のところで、7ページから20ページのところで、大きい見開きになっている。これは見開きにして、本当に右側から左へと流れるようにという形であるが、これは6年生でつけたい力というコーナーになっており、その学年でつけたい力を学年の初めに見開きで簡潔にまとめている。そういった構成の特徴が挙げられる。</p>
吉村委員	<p>来年度から施行される学習指導要領で、その中に児童の読書意欲を高め、日常生活における読書活動につながるよう配慮することが重要</p>

	と記載されているが、本市においても、読書習慣をつけるためにブックスタート事業であるとか、朝読書であるとかいろいろと工夫をしているが、各教科書においては、そういう読書意欲を高める努力というのはどのように工夫されているのか、お教えいただきたい。
教育部長	各社とも、読書のほうでは本を結構いろいろ紹介されているが、そういった中で光村図書と学校図書というのがやはり著名な作品の作者を中心とした物語が取り上げられているということで、児童の興味、関心を引くという、そういう点では工夫がされていると考えている。
西村委員	今の読書という点について、学校図書で図書館のことを取り上げている。2年生では図書館で読もうということで、3年生では学校図書館で本を探そう、4年生では地域の図書館を利用しようというコーナーがあり、例えば2年生だと124ページに、イラスト入りで図書館の利用方法等の記載がある。こういう図書館の利用の仕方を紹介しているということで、子供たちが本に親しむ機会につながる工夫がされているように思う。
佐野委員	教材について、東京書籍では古くから親しまれている教材の中で学ぶことができ、教育出版では発達段階に応じた内容をテーマにして、児童が取り組みやすい工夫がされているように思う。
吉村委員	当市の特徴と言おうか、課題として、毎年、全国学力・学習状況調査で、本市の児童は、文章問題を読み解く力がいつも課題として上がっている。そういうことを考えると、従来使用していた光村図書の教科書は教える側も非常になれていて教えやすいとは思いますが、反対に学校図書のほうが、比較的新しい教材がより多く取り入れられていて、従来と少し観点を変えた教え方ができるのではないかと思います。それ以外にも、同じように今まで親しまれていた教材も多く取り入れられており、バランスが良いと思うので、この際、従来型の教科書よりも少し視点を変えた教科書のほうが良いと感じるが、いかがか。
西中委員	来年度から新しい教科書として、英語あるいは道徳といったものが入ってきて、先生方も教材研究とか、授業を進めていく、そういう中で大変だと思う。現在使っている現行の教科書を使うと、先生方の負担の軽減を図れるという視点から考えてみるのはいかがか。
佐野委員	私も小学校の経験があり、光村図書を使用した経験があり、事前の学習目当ての把握、教職員の負担ということを考えるとずっと使ってきた教科書が良いと思うが、新しい令和の時代に入り、この辺で新しい教材に触れられるというのも子供たちにとっては良いのではと思う。
西中委員	光村図書は、佐野委員が言ったように、文学作品が非常に良いわけである。そういうことで、先生方は文学作品を取り扱っており、大変評価が高いということは言える。 一方、先ほどから出ております学校図書は、言葉遊び、あるいは児童が楽しんで言葉に親しむ、そういう工夫が非常にできておって、対話的能力というか、対話によっていろんなことをお互いに話し合いをしながら学習を深めていくということが重視されているので、そういうことから考えると言葉と友達というような、自然に国語に入っていく点が学校図書のすばらしい点ではあると思う。そういう比較をすると、なかなか難しいなと思う。
西村委員	今、主体的、対話的な深い学びというのが新しい学習指導要領で一つポイントとしてあるが、児童が主体的に学ぶという観点からすると、特徴のある教科書というのはあるのか。
教育部長	この質問も、今回の改訂の中心の主体的、対話的で深い学びを構成

	<p>するというのが教科書の大きな改訂であるので、どの教科書についても、その部分については工夫されていると思う。特に主体的というのは、自分で考えるということがまず大事で、自分で考えをまとめないと、次、対話ができないということなので、そういった点でいうと特徴的なのは東京書籍と学校図書というふうに選定委員会では意見が出た。</p> <p>東京書籍というのは、単元ごとに見開きの扉のページがあって、指導する目標や児童につけたい力が明示されているという、これははっきりとそういうふうにやりやすいという分と、学校図書では、2つの異なる説明文を児童が興味、関心を持てるようにテーマが取り上げられていて、その文章を比較することで児童が主体的に学習を進めるような工夫がされているというのが特徴というふうに考えている。</p>
佐野委員	<p>説明では、児童が興味、関心を持てるという試みであるが、学校図書の国語6年上、92ページにA Iで言葉と向き合うというところがある。これからの時代に不可欠なA I、人工知能を取り扱っている。そしてまた、5・6年生が分冊になっていて、学習するのに便利であり、取り扱いやすいという観点が学校図書の特徴かなと思う。使いやすさでは良いかなと思います。</p>
西中委員	<p>学校図書は、構成が新しいという意味では非常に良いのではないかなと思う。</p>
木寄教育長	<p>小学校国語の教科用図書は、学校図書の教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>次に小学校の書写についてのご審議を行う。各社の教科書の特徴を説明いただきたい。</p>
教育部長	<p>まず、東京書籍について、6年の6ページを見ていただきたい。6ページの右上のほうに書写の鍵というふうなところがあるが、この部分が少しポイントになっているということで、文字を整えて書くための知識、技能を書写の鍵というふうに示していて、こちらを核とした課題解決学習を意識されている。基礎基本の確かな習得と日常への活用を育成するようにしているというふうになっている。</p> <p>続いて、学校図書は半紙大の毛筆教材がオリジナルということで、これも6年生を見ていただきたい、6年生の30、31ページに、ちょうど実りの秋というこの部分、書写の見本がちょうど半紙の大きさになっているという。これが半紙大の大きさになっているということで、子供が書写を実際に書くときのイメージが非常に深まるというふうになっている。ほかでは、多様な書き込み欄等で主体的、対話的な深い書写学習ができて、文字を書いて学び、喜びを感じさせる習得ができるものというふうに考える。</p> <p>続いて、教育出版は、これも6年生の4ページ、児童が課題を解決する学習を行うに向けて、考える力、書いて伝え合う力を育成できて、主体的、対話的深い学びを支援する学習の進め方が全学年に掲載されている。</p> <p>4ページに目当てがあり、そして試し書きがあり、考えよう、そして、ここが大切、まとめ書き、生かそう、振り返ろうというふうな進め方がきちっと構成されているというところが特徴である。</p> <p>次に、光村図書は、学ぶ楽しさや達成感を感じられる工夫が掲載されていて、学習の流れをわかりやすく示し、見通しを持って主体的に取り組めるような配慮がされている。自己評価、相互評価がしやすく</p>

	<p>なっているということで、ポイントになる自己評価、相互評価のところでは、6年生の6ページを見ていただきたい。</p> <p>6ページの左下ですが、振り返ろうというところで、点画のつながりを意識して書いたということで、できたでは丸、もう少しは三角という、これは自己評価につながる欄があるというのは特徴である。</p> <p>最後に、日本文教出版について、これは考える、確かめる、生かすという3段階の学習コーナーを設けて、学習課程が非常にわかりやすくはっきりされていると。1・2年用については、水書きシートというのが巻末についてある。1年生の一番後ろに、水でここをなぞると字が浮かんでくるという。この水書きシートというのが、硬筆によつての適切な運筆能力の向上と習慣の定着が図られるような工夫からされているのと、1年と2年、低学年でいうと実際に墨を使うと、やはり墨で汚れるというそういう部分と後片づけに非常に時間がかかると。これは水書きシートを使えば、水だけで服も汚れないと、この辺は配慮されているかなというふうに考える。</p> <p>いずれにしても、工夫はされているが、特に学校図書の手本が半紙大の大きさになっているというのが、これらの使いやすさが際立っているというふうに、調査報告会、そして選定委員会でも評価が高くなっていたということを報告している。</p>
西中委員	<p>今、選定委員長の紹介にあったとおり、各社とも新しい学習指導要領の趣旨にのっとり、構成されているということで非常に感心しているが、特に前学年の復習をして次の学習に入るというか、東書、学図、教出、日文にそういう構成が見られるので良いのではないかと思います。</p>
西村委員	<p>全学年で統一した学習の手順が明確にされているという意味では、東京書籍や学校図書が良いのではないかと。指導方法が全学年で統一されているので、指導のしやすさにもつながるように思うし、子供たちも流れがわかっているということで、より主体的に学習に取り組めるのではないかと思います。</p>
吉村委員	<p>学校図書の3年生、特に大きな字で半紙大で見本があつて、ほかの教育出版でも、同じように見本を下に置いて透かして書けというのは書いているが、やはり字の大きさからすると半紙大と同じサイズのほうが、習字を習った経験からすると、横に置いて写すよりは下に敷いて書くほうがやっぱりきれいに書けると。置いて上からなぞるとというのが、何事でも人のまねをして、そこから独自性を出せば良いので、人のまねをするという意味では、同じサイズで書写学習ができるというのは非常にやりやすいのではないかと私は感じているが、いかがか。</p> <p>ほかの教科書でも、先ほど言った教育出版でも同様に、同じような工夫はありますでしょうか。</p>
教育部長	<p>半紙大というのは学校図書だけなので、これは選定委員の保護者の意見でも、やはり子供にとっては原寸大というのは非常にイメージが湧きやすいという意見が出た。</p>
佐野委員	<p>楽しく正しい文字を書く学習、それを目指していくわけであるが、なかなか墨の準備、後始末、また半紙の後始末をすることを考えると、書道の時間というのは本当に45分と限られた中で指導していくわけであるが、そういうことを考えると、やっぱり学校図書の教科書が先生にとっても指導しやすい、子供にとってもわかりやすいということで学校図書が良いかなと思います。</p>
西中委員	<p>今までの書写の教科書という枠から外れて、主体的に進めていくと</p>

	<p>どうか、書写もこうあるべきだと思うのだが、そういう構成になっているところが非常に良いのではないかと思う。</p>
吉村委員	<p>質問であるが、何か左ききに注意したような記述がある教科書が見当たらないが、その辺は何か学習指導要領等では出ているのか。最近あまり左ききも矯正をしないようになっていくと聞く。</p>
学校教育課長	<p>左ききに関しては、図画工作の指導等でもかなり重要なことにはなってくる。特定の部分で先生方も工夫されているが、学習指導要領上、こういう教科書に反映されている、書写に関しては左ききについての記述というのは少ないが触れられている。</p>
木寄教育長	<p>小学校書写の教科用図書は学校図書の教科用図書を採択することにご異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>それでは、小学校の社会についてのご審議をお願いしたい。各教科用図書の特徴について説明をいただきたい。</p>
教育部長	<p>社会の教科書については、いずれの教科書も、主体的、対話的深い学びのことが中心に構成されていると思う。</p> <p>東京書籍だが、問題解決的な学習の流れというのがわかりやすく示されていて、社会科で求められる資質や能力を働かせて深い学びにつながるよう示されていると。東京書籍だけ大きな特徴があり、3社の教科書とも大体教科書のサイズも一緒、東京書籍はコンパクトで分冊になっている。6年生の歴史編、8ページから15ページまでが大体をつかむという内容、それから、16ページから調べる、そして、最後にまとめるという、つかむと調べるにおいて主体的、対話的学びを継続しながら、今度是对話的の部分と深い学びを調べる、まとめるにおいて行っていくというのが特徴。</p> <p>教育出版も同じような形で、単元で学習を見通す場面、振り返る場面が丁寧に例示されている。社会で求められる資質や能力を働かせた学習を行いやすい。これによって、主体的、対話的で深い学びの実現をさせるものということで、ここについては国語のときにも話をさせてもらったように、割と教育出版の教科書は子供の絵とか先生の絵が対話しているという、そういうふうな部分が随所に見られるというのが特徴だと思う。</p> <p>最後に、日本文教出版は、児童がより興味、関心を持って学ぶ問題解決的な学習を通して、主体的、対話的で深い学びに導いて、社会で求められる資質や能力を確実に育成できるようになっているように思う。これはほかの2つとは違う点は分冊ではなく、分冊をしないということで教員らはどの分野からでもスタートできるという。例えば歴史をするのか、政治をするのかという部分についても、教員のあるいはその学年のやり方ということで、カリキュラムマネジメントが柔軟に計画できるというのが特徴になっているというのが日本文教出版である。</p>
西村委員	<p>教科書の中に資料の提示がされていると思うが、提示の方法や量については各教科書どうだろうか。</p>
木寄教育長	<p>松田課長。</p>
学校教育課長	<p>提示される内容の程度か、どの教科書も発達段階に合わせたわかりやすいものになっているのではないかと思う。</p> <p>その中で、特徴的なものを挙げると、まず、東京書籍。写真や挿絵などはどこの教科書も入っているが、児童の発達段階を考慮して取り扱っている。</p> <p>特徴的なところは、例えば東京書籍の3年生の44、45ページ。</p>

	<p>畑で調べ学習をしているところに、こういった写真や資料や両ページにわたってたくさん載っている。そこに記述の順番に、写真に番号を振っていて、児童の理解を助ける。支援の必要な子とかに対して、今何番をやっているとかそのようなことを言って児童の理解を助けるような工夫がされているのが特徴的なところだと思う。</p> <p>また、ほかに挙げるとしたら教育出版とか、大切な事柄は吹き出しを利用して児童のせりふによって表現している。そうやって身近に事柄を捉えることにつながっているのではないかと思う。</p> <p>日本文教出版については、児童の発表や発言の形で内容が進み、内容進行がなされている。これも日本文教出版の3年生。</p> <p>46ページ、左側のページにおいて、子供たちの顔を載せて意見を並べる。これはよくあるが、この右側、47ページ。登場児童が疑問を出し合う形で、学習課題をつかむ様子が具体的に示されるなどの工夫がなされているのが特徴的だと考える。</p>
佐野委員	<p>3社とも本当に児童が主体的に学ぶための配慮、疑問を見つける、主体的に調べてまとめていく、そして振り返る、そのこのところがすごくよく工夫されているなど感心している。</p>
吉村委員	<p>主体的に学ぶという点では、先ほど説明があった日本文教出版が、学習をしていく上で問題をつくるという時点、計画をつくるという時点、先ほど説明があった3年生の46ページを見ると、そういうところからみんなで話し合っって計画を立てて学習問題をつくるという流れが教科書に具体的な例で載っていて、これが非常に良いところだと私は思う。</p> <p>さらに、単元末には振り返りや自分なりにまとめるというポイントが示されるというのも、児童が主体的に学習をするということに結びついていると思う。この点についても日本文教出版は学びやすいのではないかと思う。いかがか。</p>
西中委員	<p>主体的に学ぶということになると、特に社会科は調べたこと、あるいは自分の考え等をノートにまとめるというノートづくりが非常に大事ではないかと思う。</p> <p>例えば6年の、37ページ、あるいは93ページ、それぞれ特徴的なノートを例示して、そのノートづくり、それぞれ個人によって違うが、基本的なノートづくりの方法というか、これを下の学年からきちんと整理して提示しているのは非常に良いのではないかと思う。これは東京図書と日本文教出版において、非常によくまとめられているのではないかと思う。</p>
西村委員	<p>日本文教出版は分冊になっていないということが一つの特徴としているが、どうしてもそうすると6年生とかかなり分厚い教科書になる。ただ、こうやって広げたときに、ページがきちんと開いたままの状態になりやすいような工夫があり、そういう意味で使いやすくなっているのではないかと思う。</p>
西中委員	<p>今政治のほうで問題になっている領土問題についても、各社ともきちんと書いているが、特に日本文教出版、かなりきっちりと領土の問題についてまとめていると思う。</p>
木寄教育長	<p>それでは、社会についてお諮りする。</p> <p>小学校社会の教科用図書は日本文教出版の教科用図書を採択することにご異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>次に、小学校の地図についてのご審議をお願いしたい。</p> <p>それでは、各教科書の特徴について、選定委員会からのご説明をいた</p>

	だきたい。
教育部長	東京書籍と帝国書院ともに楽しいイラストマップや地図学習を新設されている。あるいは英語や他教科での学習に役立つようにも工夫されている。改訂される学習指導要領より、小学校3年生から地図帳を活用する学習機会が出てくるが、その配慮や工夫もどちらの教科書も考慮しており、なかなかどちらを選ぶかという部分では少し迷うところもあるが、若干使いやすさとか工夫の中では、帝国書院のほうが工夫はされているかなという選定委員会の意見は出ました。
吉村委員	令和2年度から地図帳の活用が小学校3年生から始まるということになっているが、その点に関しての配慮、工夫でこの2社で特徴的なところはあるのか。
教育部長	まず、帝国書院が東京書籍よりも少し工夫されているかなという部分で、例えば帝国書院の地図の19、20、21、22、23、24という、ここは次のページの地図よりも縮尺が、これは160万分の1の縮尺の地図が載っているが、明らかにこれは3年生の学習のための地図が掲載されていると。それと限られた都道府県の位置と名称や形、交通による結びつきも端的にわかるような形で必要最小限の地名で抑えられているというのも、大きな地図の特徴になっている。最初に地図になれ親しむということについては非常に使いやすい工夫が特徴かなと思う。
西中委員	来年度から3年生から地図帳を使うということであるが、そういう意味では、3年の地図帳の導入のところ、これは堺市の大仙公園、大仙古墳のこのあたりを中心に地図に入っていくということで、非常に子供たちにも親しみを持ってやっていけるのではないかと。そういうふうに、地域性があるので、良いのではないかと思います。
西村委員	中学校では前は、伝統的な帝国書院ではなくて東京書籍を採用した。そのときに東京書籍のほうが資料的なものがたくさんあるので、資料としても使えるのではないかとというような観点で議論したことがあると思うが、今回の小学校用の地図について、資料とか情報量、そういった観点からはいかがか。
学校教育課長	確かに東京書籍のほうは大変多くはなっているかなと感じる。ただ、前回の反省ではないだろうが、帝国書院のほうも情報量がかなりふえてきており、どちらも全ての資料を使いこなせるのかという不安が出るぐらい、たくさんの資料を入れているので、現場での活用ということに関して言えば、大きな差はないのではないかなとは思われる。
佐野委員	帝国書院の地図であるが、26 ページに地図マスターへの道というのがある。34 ページにも同じように、地図マスターへの道というのがあり、これは問いを通して社会的事象の見方、また考え方が養われていくのではないかなと思う。こういったところが31カ所、非常にたくさん掲載されているということも特徴的だなと思うので、子供たちの興味、関心を引き出すことにとってもいい工夫をしているかなと思っている。
西村委員	親しみやすいイラストで文化財であるとか、それから、とれる食べ物あるいは動物とか、地域に密着したものが帝国書院のほうでも紹介されているので、こういったものを手がかりにして調べ学習などにも使えるのではないかなと思う。
木寄教育長	それでは、地図についてお諮りをする。 小学校地図の教科用図書は帝国書院の教科用図書を採択することにご異議ないか。
各委員	異議なし。

木寄教育長	<p>それでは、次に小学校算数についてのご審議をお願いしたい。 各教科書の特徴について、選定委員会からの説明をいただきたい。</p>
教育部長	<p>算数は6社あり、まず、東京書籍から説明をさせていただく。 東京書籍は、自分の考えを図や式を使って書く、問題解決的な学習や図を見て考える、式を見て、図を使って説明するなど、算数で求められる力をわかりやすい形で示して、算数で求められる力の育成を核として、深い学びを支援するという、ここが特徴であるが、全体に東京書籍の教科書は、教科書がワークブックというような形で書くところが非常に多いというのが特徴である。</p> <p>また、1年生の教科書の非常に大きなワイド版であるが、これは就学前の幼稚園、保育所等から入学してきた子供たちにとっては、小さな教科書にならずに、大きな教科書からだんだんと教科書になれていくという、そういった狙いでつくられているというのも少し特徴である。</p> <p>続いて、大日本図書であるが、授業の流れが丁寧に示されている。じっくり深く学び合おう、考え方のまとめや算数で求められる力を養うためのひらめきアイテムが設定されていて、単元末問題により習熟度別指導にも対応できるようになっているというのが簡単なポイントである。</p> <p>6年生の教科書でいうと、13 ページ、先ほど説明したひらめきアイテムというのが載っており、形の見方、対象ということでそれが 268 ページにメモとなっている。こういうふうに子供たちの考え方を補充できるような部分を構成の中に取り入れているというのが特徴である。</p> <p>続いて、学校図書であるが、学校図書も主体的に問題を発見、対話的に課題を解決し、統合的、発展的に学びを深めることができるような工夫はされている。算数で求められる力は9体のモンスターとしてあらかし、楽しみながら算数で求められる力の定着が図られるようになっていくというのが特徴で、9体のモンスターについてですが、6年生の教科書でいうと7ページ。9体のモンスターを全部登場させているが、ヒトツツというのとかワッケルというのと、別のあらかし方をする場合なんかはベツアラワシとか、そういうふうな子供が興味を持つような、そういうふうなモンスターをそういうふうな考え方のネーミングをしてというのが特徴になっている。</p> <p>続いて、教育出版ですが、教育出版については問い続ける力を育てるということが意識されている。問いの連続で授業づくりや深い学びを実現できるものとなっており、領域を貫く算数の見方を掲載し、単元のまとめの考えるヒントでつまづきを丁寧に支援できるようになっている。</p> <p>ここでは6年の33 ページの下のところにある考えるヒントというところに、これも教員の説明等でなかなか理解できない子供が自分で考えるようなヒントがこういうふうな形で随所にあるという部分が特徴である。</p> <p>啓林館については、目当てが例示されているが、その目当てに対応するまとめを掲載して主体的な学習の支援がある。そして、目当てにつながる学びの芽生えをセールスポイントというふうにされているのが特徴で、各学期末に活用課題を設定し、問題解決力の育成ができるようになっていくということで、芽生えについての説明を少しさせていただくが、6年生の12 ページ、下のほうに目当てがある。形に目をつけて仲間分けをしようというその上に、男の子が、どれも整った形</p>

	<p>だけど、似ているところや違うところというふうに吹き出しがありますが、これが芽生えになっていて、目当てを提示する前に一つ子供たちにそういった考えるヒントをつくっているというのが特徴である。</p> <p>最後に、日本文教出版であるが、算数の学びのポイントについて、筋道を立てて考え、表現するための学び方を明確化、そして、基礎的、基本的な定着のために生活や学習の基盤となる算数の基礎をきちんと築いていると。算数の楽しさやよさをしっかりと感じられるという3点がまとめられている構成で、ここは6年生の教科書でいうと巻末を見ていただけたらと思うが、今話をさせてもらったことが学習の一つの構成になっており、どんな問題かなということの問題の意味をつかんで、見通しを立てて考えて解決していくと。その自分の解決に対して学び合いをします。そして、最後には友達同士の考え方からまとめたものを振り返るといふ、こういう流れのことがきちっと示されているというのが特徴になっている。</p>
西中委員	<p>算数というのは、いわゆる問題解決型の授業で最も重視される教科書ではないかと思う。それに選定委員長からのご報告があるように、どの教科書もかなりそういう意味では、問題解決、子供たちの身近にある算数というか、身の回りにある算数を問題として、課題設定してそれを解決していくという、どの教科書もそういう構成になっているので選定が大変なのか。</p>
吉村委員	<p>学習の取り組み方として東京書籍と大日本図書、教育出版、日本文教がまず身近な疑問から学習した後に、それで学んだことを実際の生活場面で生かすことができるように扱われていると私は思う。そういうところがこの4つの教科書の良いところではないかと思う。</p>
佐野委員	<p>算数科の単元は初めの導入の指導がとても難しく、教える側にとっても苦慮するところであるが、導入の扱いを工夫された特徴的な教科書はあるか。</p>
学校教育課長	<p>導入ということで2社挙げさせていただく。まず、先ほどから見ていただいているが、東京書籍は、初めに扱う主題をページの3分の1程度でまとめてあり、非常にすっきりと見やすく工夫されている。</p> <p>あと、特徴的なところとして大日本図書も特徴的であり、6年生の教科書の60、61ページ、各社とも写真とかイラストとかかなり使われているが、これは恐らく他社と比べた場合、パッと見て、これは確かにイラストとか漫画的な特徴の工夫がされていて、今の子供たちはこういったものが取り組みやすいということで、導入の工夫というのはこういったところでもされているのではないかなということこの2社を挙げさせていただいた。</p>
佐野委員	<p>子供たちは算数科を通して、思考力とか判断力、また表現力という力をつけていくわけであるが、そういう観点で各教科書では問題解決型の学習を取り入れていると思うが、その観点から特徴的な教科書はあるか。</p>
教育部長	<p>いずれの教科書についても、ヒントをもとに自力解決を促しているというのは特徴、共通しているが、3社が特徴的かなということで、啓林館と日本文教出版と東京書籍というのが特徴かなと思う。</p> <p>まず、啓林館と日本文教出版は説明する力をつける問題というのが随所に配置されていると。それから、東京書籍というのは、図や式を使って考える学習を踏まえて、それらをもとにそれを使うという問題が多く設定されているというのが特徴的というふうなことで、この3社が大きいかなと思う。</p>

吉村委員	<p>みんなで話し合いながら目当てをつくっていくという構成が、思考、判断、表現に係る観点での図や式を使って考えたり、それをみんなに説明したりできるという力をつけるための工夫というものから、さらに個々が主体的に対話的で深い学びというのが非常に大切であると言われているが、それを実現するための工夫が特に東京書籍では多いというふうに私は感じるが、国語のときにあったように読み解く力というのを育成するという意味では、こういう工夫が必要ではないのかなという、工夫した教科書が良いのではないのかなと考える。</p>
西中委員	<p>東京書籍が唯一1年生で版が大きいわけである。特に1年生は算数という教科に初めて出会うわけだが、具体から抽象、算数から数学に入っているいろいろなつまづくというようなことを言われるわけだが、具体的なものから抽象化するというところは操作活動、算数的操作というか、そういうものが非常に重要であるが、大判になっているという具体的な操作をしたり、そこにおはじきを置いたり、あるいは数字を書いたりするわけであるが、大判になると非常に見やすく操作がしやすいと。そういうところが算数的活動という視点から見たときに、唯一大判である東京書籍が良いのではないかなと思う。</p>
西村委員	<p>東京書籍は1年生だけではなくて、図形を使う教材として、巻末にトレーシングペーパーなどや切り取れる図形がついている。例えば5年生の巻末のところにトレーシングペーパーの図形がついていて、これを実際に重ねたり、動かしたりとかしながら図形について考えていくということができるというのは、なかなか図形は取りかかりにくいので、すごく使いやすいのではないかなと思う。</p>
木寄教育長	<p>算数についてお諮りをする。小学校算数の教科用図書は東京書籍の教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>小学校の理科についての審議をお願いしたい。各教科書の特徴について選定委員会からのご意見をいただきたい。</p>
教育部長	<p>理科については5社あり、特徴は各社共通しているのは、理科は実験というのが中心になるが、その実験を行うまでの問題提起、そして予想、仮設、そして実験をして、その実験結果から得たものをまとめるというこの構成は全ての教科書で大体同じである。</p> <p>そのあたりの中で工夫をされているということで言うが、東京書籍は授業の流れとポイントが一目でわかるような工夫があり、問題解決の過程がわかりやすくまとめられている。単元の導入の充実や問題解決の力の重点育成場面が明示されているというのが特徴である。東京書籍でいうと、6年の14ページ、物の燃える燃焼実験の話であるが、問題があって、その問題に対して予想と計画があり、実験、そして実験が行われた後に、考えをまとめながら結論を出すというそういう構成が割と教科書がワイド判でビジュアル的な部分についてもすごくはっきりとしているかなと。</p> <p>続きまして、大日本図書であるが、3つに色分けされた学習の流れが繰り返されることで、問題解決の力が身につけられるような工夫がされて、児童がみずから設定した理科の見方で着目ができ、理科の考え方を働かせることが可能となっていると。話し合う場面が多く、主体的、対話的な学びに活動や単元末、巻末問題の充実で深い学びに対応しているというのが特徴で、6年でいいますと14ページから17ページ、東京書籍と同じですが、物の燃え方のところで、まず、問題のところは緑色、予想と計画と実験がオレンジ、結果もオレンジ、そして最後、考えをまとめる考察と結論のところは青色というふうな色分</p>

	<p>けが特徴になる。</p> <p>続いて、学校図書であるが、資質、能力、見方、考え方を明示しており、考える視点により問題解決の流れを明確にし、学んだ知識・技能を定着する場面や思考力、判断力を伸ばす場面も設けてあるということで、学校図書についても、6年の8ページ、9ページ、10ページ、問題を見つけようということから活動が始まって、計画がなされて実験、そしてその実験の結果から考察というこの構成については同じだが、流れる部分は同じであるけれども、パッと見たところはずっとビジュアル的には単調的な部分が目立つかなと思う。</p> <p>続いて、教育出版ですが、同じように授業の流れをイメージできるような構成で、いろんな教育課題についてと、それから、新学習指導要領の狙いについても明確に表現されているということで、ここも同じで燃焼のところかというと6年の12ページ。まず、を見つけようから始まって、問題があり、予想と計画、そして実験、その実験についての手順は非常に丁寧に書かれていると。そして、結果を出して、結果から結論という構成で、これは鉄腕アトムイラストがそういうふうな流れを示しているというところが特徴である。</p> <p>最後に啓林館ですが、児童が主体的に学びに向かうことができるような導入が工夫されており、身近な物事を科学的な視点で考えることから深い学びへつなげていると。理科と日常生活がつながっていることを実感できるという興味深い話題の掲載が多いと。防災・減災とか自然の恵みの記載も多く見られるというのが特徴である。</p> <p>6年生の燃焼の話でいうと、10ページから12ページ、ここも問題をつかむということで問題が提示されて、予想、そして実験、そして結果、考えよう、そしてまとめ、そのまとめから学んだことからもっと知りたいという、そういう発展という部分が構成の中に入っているというのが特徴である。</p>
吉村委員	<p>どの教科書も学ぶためのステップというのがはっきりと明示されていてわかりやすく、科学的な思考を身につけるという意味ではどの教科書も遜色なく工夫はされていると思うが、それに加えて、友達と話し合う活動を取り入れているというのが東京書籍、教育出版、啓林館なんかで見受けられるので、そこはまたその3つの教科書の良いところではないかと思う。</p>
西村委員	<p>理科の学習では、学んだことを実際の生活につなげるというところが大事だと思うが、そういった観点から見て特徴のある教科書はあるのか。</p>
学校教育課長	<p>理科という教科が、1・2年生のときは生活科ということで、それが3年生になってからは社会科とか理科とかに派生していくわけであるが、そういったところの観点から考えると、やっぱり実際の生活につなげるというのは各教科書それぞれが資料などを活用して、ふだんの生活から興味を持って科学的な角度から考えられるように配慮がされている。</p> <p>その中であえて幾つか挙げると、東京書籍と学校図書と啓林館の3社は、資料として示すだけではなくて、学んだことを生かして日常生活の事象などについて考えることができるようにより工夫されているのではないかと思う。</p>
西中委員	<p>主体的に学ぶということでそういうことに配慮されているのが大日本、教出、啓林館ではないかと思うが、特にノートの書き方が例示されており、実験、観察なんかはきちんとノートを整理して結論を得るということで、ノートの例示というのは非常に科学的考察を身につけ</p>

	<p>させるためにもいいのではないかと思う。</p> <p>その中でも、東書は単に振り返るだけでなく、学んだことを発展的に考えるという、そういう設定があり、これは非常に良いと思う。今まで実験や観察で学んだことをもとにして、発展的にどういうことが考えられるかというようなことが非常にうまくまとめられており、また、学年の巻頭に理科の学び方というのが設けられているわけであるが、理科の学び方をスタート、問題、観察・実験、まとめ、さらに発展ということで一つの学び方のスキルというか、そういうものを低学年から着実に身につけさせていくということで、東書の構成が良いのではないかと思います。</p>
佐野委員	<p>東京書籍が良いと思う。6年生の巻末に飛び出る人体模型というのがあるが、児童一人一人が興味を持って学習するために、各学年に応じてそういう工夫がされているというところ、なかなかこういうものはほんまもんには触れられないが、写真もとてもきれいで、良いかなと思います。</p>
吉村委員	<p>飛び出る絵本、人体模型であるとか、あと、4年の教科書で人の生まれるところとか、胎児の絵とか、そういうのはやっぱり東京書籍は割とリアルに書かれている。昔、人体の不思議展というものがあつたが、あれは標本の問題で今中止になっているが、ああいうものを見て、やはり医学の道に進むと思ったという人も実際にいるので、こういうリアリティーというのは理科では非常に大切ではないかと思う。</p> <p>また、5年生の星座、星の写真も非常にきれいである。実際に見てみたいと思う写真というのは非常に大切だと思う。</p>
木寄教育長	<p>理科についてお諮りをする。小学校理科の教科用図書は東京書籍の教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>次に小学校の生活についてご審議をお願いしたい。それでは、各教科書の特徴について選定委員会から説明をいただきたい。</p>
教育部長	<p>生活が一番多く7社あり、東京書籍から説明する。生活科の学びが非常に身近という教科書で、資質・能力が主体的、対話的で深い学びの中で実現する姿を具体化している。</p> <p>大日本図書については、幼児期から中学年へ学びつながるような構成になっており、表情豊かな写真、または楽しいイラストや仕掛け、児童の興味、関心を引き出し、主体的な活動を喚起するようになっていいる。表紙の盛り上げ印刷は諸感覚を活用することを狙いとしていられる。資料が豊富で、伝え合う力や活動の充実が深い学びに導くようになっていいるということで、ここだけ少し、大日本図書の盛り上げ印刷というのはこの表紙であるが、表紙をさわっていただくと立体的になっていいるというこの部分について、これは選定委員会では、ここが逆に、生活は1年生、2年生なので、この盛り上がりを子供がさわって授業に集中できないのではないかと、そういう意見も出た。これは特に保護者の方からの意見が多かった。</p> <p>次に、学校図書であるが、幼保との連携、中学年以降の自分につながる思考力、判断力、表現力を培うような工夫がされていいて、自己決定をしながら主体的に願いを達成、生の対話的な学びで他者の存在を認め、成長した自分を自覚して自信を持たせるような工夫がされていいると。</p> <p>教育出版ですが、絵本、サイコロ、はしご、他教科マークの仕掛けで力を育むような工夫がされていいるということで、ここはいろいろなアイコンのようなものが多いということである。</p>

	<p>それから、光村ですが、単元をホップ、ステップ、ジャンプの3段階で構成してあり、児童が振り返りを書いて張るのに便利なシールが巻末についているというのが特徴である。幼保・小との接続のためのスタートカリキュラムやカリキュラムマネジメントに生かせる活動を明示しているというのが特徴である。</p> <p>啓林館は、導入をわくわく、主な活動をいきいき、表現活動をぶんぶんで単元の流れを明確化していて、紙面の右下のめくり言葉、思いや願いがつながるように、幼保との連携では、上巻の巻頭スタートブックを設けてあり、中学年以降への接続については、下巻の巻末にステップブックを設けているということで、このあたりが次の、あるいは前からのつながりを意識されているというところが特徴である。</p> <p>日本文教出版については、教員にも児童にも構成が非常にわかりやすく使いやすい教科書になっているかなど。資質・能力の3つの柱に応じた学習の目当てを小單元ごとに明示してあり、考えるための技法を繰り返し活用でき、3年生以降で生かせる力が身につくための工夫がされています。知識・技能の基礎というのを網羅している巻末資料も充実しているというのが特徴である。</p> <p>生活科で身につくようなものについては、各社に非常に特徴があるかなというところが全体的な意見です。</p>
佐野委員	<p>本当に各社よくできていると思う。どの教科書もスタートカリキュラム、幼稚園、保育所、認定こども園等との円滑な接続を意識した、そういう本になっていると思う。</p> <p>ただ、入学時からの活動の手助けとなるような構成にはなっているが、この辺でこの観点から特徴的な教科書を、どういうご意見が出たのか教えていただきたい。</p>
学校教育課長	<p>なかなか甲乙つけがたいというのがこの生活であり、選定委員会のほうで本当に各社甲乙つけがたい、拮抗しているなという意見があった。</p> <p>でも、その中であえて2社挙げさせていただくと、まず、日本文教出版。表紙を見ていただいても、写真を多く取り入れていることが特徴的であるというのはすごくわかりやすく、各巻の巻頭に教科書の使い方が見開きで示されており、主体的に学ぶことに役立つ工夫がされているなという意見があった。</p> <p>もう一つ挙げると、光村図書ではスタートカリキュラムからずっと中学年へつながっていく、また、それ以降の活動の例示もされている。</p> <p>光村図書の96、97ページ、これまでにジャンプのページで貼ったシールを貼るといって、これまでやってきたことを一番最後のジャンプのページに貼るシールがあるが、それを途中で貼っていく。それをまたここに下であるのもう最後の最後だが、そのシールを最後のところで集めてきて自分の活動を振り返る、そういう活動になっている。</p> <p>102、103ページとかというところに広がる生活辞典というのがあり、102ページのほうには見つける、工夫するとか、103ページではあらかず、伝えるなどもありまして、さまざまな技法をそのシールを集めてきた後でまたこういうのを見ることによって、中学年に向けた活動を示されているというところが特徴になっている。</p>
吉村委員	<p>生活は、子供たちの活動が主になる教科だと思うが、どの教科書も子供たちが主体的に学ぶことができる工夫がされていて、観察したことを表現する活動にも工夫はされていると思うが、その中で主体的な学びや観察したことを表現する活動ということの観点で、特徴的な内</p>

	容の教科書というのがあるか。
教育部長	<p>それについては、3社紹介をさせていただく。</p> <p>まず、学校図書であるが、生活の下を見ていただくと、例えば24ページ、上に先生の周りに男の子と女の子が2人ずつ載っているが、このようなキャラクターが随所に交流していく。交流していく場面で子供たちが自分自身や生活について考えることができるような配慮がされているという、これがまず一つ。</p> <p>続いて、教育出版であるが、上の27ページの右に満足はしごというのが載っている。何々と仲よくできたかなとか、家族をにこにこできたかなと、そういうような自己評価を通して、自分自身や生活について考えて表現できるような工夫がされていると。</p> <p>最後に、日本文教出版であるが、下の40ページと41ページ、そういうふうな身近な生活にかかわる見方、考え方についてを考えるとということで、夏休みを楽しく過ごそうというページがこのページであるが、計画や目標を立てるとともに、夏休み後に伝え合う活動が示されているということで、まず、自分が夏休みにチャレンジすること、それを実際に実行して行って、そして、そのまとめをして、その後伝え合うと、そういう活動が単元として出ているというのが特徴かなということで紹介させていただく。</p>
西村委員	<p>生活では、話し合いなど授業に主体的に取り組んでいくということになるわけだが、生活は低学年なので、中学年の授業においても見通しを持って、そういった主体的な活動に取り組むことができるように特に工夫が見られる教科書というのがあるのか。</p>
学校教育課長	<p>使いやすさとかそういった部分を含めて1社挙げると、日本文教出版というのが挙げられるかなと思う。各単元において、見開きごとに活動内容が示されている。例えば上巻の教科書を見ても、学校の教員は1時間の授業を1枚の黒板にまとめるというのが基本中の基本になってくるわけだが、この見開きに活動内容が集約されていて、それをあけたそこであまり行ったり来たりせずに活動ができるということであると、非常に児童の見通しを持っての活動ということにも、また、指導する側としても非常に配慮が行き届いているのではないかなと思う。</p> <p>また、あわせて、参考資料のページも明示されており、日本文教出版の上巻の最後のほう、125ページ、知恵とわざの宝箱とあるとおり、さまざまな参考資料が集約されており、こちらも非常に見やすく構成されているという印象を受けた。</p>
西中委員	<p>日本文教出版は見通しを持って取り組むということ、自分自身の生活について考えるということか、高石の子供というのは自己肯定感とか、あるいは自尊心が乏しいという今までのアンケート調査では言われて、これが一つの課題であるが、自分のよさということを考えてみようとか、あるいは友達のいいところとかいろいろそういう、子供たち自身がお互いに良いところを見つけ合うということを生活の中でいろいろ取り上げているわけである。こういうのは自己肯定感、自尊心を高めるという意味で非常に有効ではないかなと思う。</p>
木寄教育長	<p>小学校生活の教科用図書は日本文教出版の教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>次に、小学校の音楽についてのご審議をお願いしたい。</p>
教育部長	<p>音楽は2社あり、まず、教育出版から説明させていただく。</p> <p>教育出版については、学習のプロセスの明示や対話的な学習の例示、音楽的な見方、考え方を育む音楽のもととメモ欄の設定をすることで</p>

	<p>新しい学びが可能となっており、音楽と生活のかかわりや伝統文化の重視も感じられるものとなっている。</p> <p>6年生の音楽でいうと、例えば13ページ、今説明した音楽のもとというの13ページの上段にあり、その上段のところにメモ欄がついている。これがずっと単元には載っており、新しい自分の気づきを書く欄があるというのが特徴です。</p> <p>教育芸術社について、音楽活動を通して心が通い合って、学んだことと生活や社会とのつながりを実感できるものとなっている。学習目標や活動内容をわかりやすく示し、学びの地図や振り返りのページを設けて見通しを持って取り組めるようにしている。口唱歌や民謡の歌い方を体験する活動を新しく設けてあって、伝統芸能に親しみ感を持たせる工夫もあるということで、今あった口唱歌についてあるが、教育芸術社の3年生の62ページ、ここに点、点、点とかというふうな形で、そういうような口唱歌の紹介というのもこれは新しい取り組みである。あとの構成については教育出版とよく似ている。</p>
吉村委員	<p>今の説明も参考にして、全体的な印象として、教育出版はどちらかという技能の指導に重きを置いたような印象を受けて、教育芸術社はどちらかという子供の興味を引こうとする工夫が随所に見られているという印象を受ける。</p>
西村委員	<p>技術指導と、それから興味・関心と2つあるが、やはり小学校の活用を考えると、子供たちに興味、関心を持ってもらうということも大事なのではないかと思う。調査報告では、そのような観点ではどのような特徴があるのか。</p>
学校教育課長	<p>教育芸術社は、児童が親しみやすいようにキャラクターによる吹き出しやヒントとか、自分の考えを広めたり深めたりできる工夫があり、学習の具体的な活動や資料などが豊富にあることで、子供の興味、関心がより引き出せるようになってきているという報告があった。</p>
西中委員	<p>確かに教芸は、学年を通して3つのかわいいキャラクターが設定されているが、音楽の中で主体的な学習を進めるということは非常に難しいと思うが、必要な指示とか助言をキャラクターを通して子供たちに伝えている。先生にかわってキャラクターが代役をしているという、そういう意味では主体的な学習を進める上で非常に工夫はされているのではないかと思う。</p>
吉村委員	<p>学習の取り組みについて、2社で特に特徴的な記載があるのか。</p>
学校教育課長	<p>リズムづくり、活動での教育芸術社というのが正解を探していくというよりも、主体的にというか話し合って、互いに納得できる答えを探すといった話し合い活動にしようというのが特徴になるのかなと思う。</p> <p>教育芸術社について、例えば、6年の22、23ページ、キャラクターがいろいろな意見を交換し、自分たちで作り上げることが左のページから右のページにかけてできるようになっている。この創作というのが必修と今なっているので、こういったところをかなり工夫されているのではないかと思っている。</p>
佐野委員	<p>私も教育芸術社が良いかなと思う。そのわけは、児童のワークシート、またグループ活動時の会話を想定した写真が提示されている。その効果によって、児童が表明するときの気持ち、また思いを持って音楽、また演奏を聞きながら音楽って楽しいなというふうになるのではないかな、そういう工夫が教芸ではされているように思うので良いかなと思う。</p>

木寄教育長	小学校音楽の教科用図書は教育芸術社の教科用図書を採択することに異議はないか。
各委員	異議なし。
木寄教育長	次に、小学校の図画工作についてのご審議をお願いしたい。それでは、各教科書の特徴について選定委員会からの説明をいただきたい。
教育部長	<p>図画工作も2社あり、開隆堂出版と日本文教出版である。</p> <p>はじめに、開隆堂出版について、共同で行う活動や対話的な活動を多く取り上げていること、それで主体的、対話的で深い学びへ子供たちを導いて確実に学力を培える構成になっている。各学年とも8ページを用具・材料の知識、安全な使い方に当て、丁寧な解説を行っているというのも特徴になる。</p> <p>日本文教出版については、3つの柱に基づく学習の目当てを題材に設定しており、学習の見通し、振り返りの場面で確認でき、主体的な学びを実現できるものとなっている。見方、考え方に基づくキャラクターが設けられており、造形的な視点に関するヒントを伝え、深い学びを支援していますということである。</p> <p>開隆堂については、例えば5年生、6年生の上では、ペンチの使い方とか、電動のこぎりの使い方とかという、そういうような非常に大きな写真等で使い方を丁寧に説明しているというのが特徴である。</p> <p>日本文教出版の見方、考え方に基づくキャラクターについて、5年・6年の上の7ページ、真ん中ぐらいに絵の具のキャラクターが出ているが、形や色の世界を広げるキャラクターがそれぞれの場面で色を変えながら補助的な投げかけをしているという、これが大きな特徴になっている。</p>
西中委員	<p>日文も開隆堂も学習の目当てがきちんと示されていて、子供たちが主体的に学ぶという構成になっているのではないかと思います。</p> <p>また、主体的な学習のヒントになる写真とかあるいは作品が紹介されているわけであるが、特に主体的に学ぶというそういう視点から特徴というか、そういうものがあれば紹介していただきたいと思う。</p> <p>日文も開隆堂も学習の目当てというのか、そういうものがきちんと示されていて、子供たちが主体的に学ぶという構成になっているのではないかと思います。</p> <p>また、主体的な学習のヒントになる写真とかあるいは作品が紹介されているわけであるが、特に主体的に学ぶというそういう視点から特徴というか、そういうものがあれば紹介していただきたいと思う。</p>
教育部長	<p>日本文教出版、5年・6年の上の6ページ、7ページ、ここはオリエンテーションのページになっているが丁寧に、6ページの上の真ん中に、黒板には3つの学習の目当てが書かれているというような形で目当ての内容、ポイントを述べられている。それから、そういう目当てのヒントとなる写真とか作品が紹介されていて、黒板のイラスト活動にそういうような目当てのポイントを書いてある。さらに6ページの下には、学習で使う主な用具のマークというような形で、非常にたくさん道具のマークというのがイラストで描かれている。これが非常にわかりやすく、子供たちが主体的に学ぶ手助けになっていると思う。</p>
吉村委員	ほかの教科とのつながりという点で特徴的な教科書はあるか。
学校教育課長	<p>ほかの教科とのつながりは、カリキュラムマネジメントと言いかえてもいいのかもしれないが、どちらの教科書もよく考えられている。</p> <p>例えば特徴的なところを1つだけ出すと、日本文教出版は、道徳と</p>

	深く関連するページに道徳マークというのがついている。5・6年の下のほうで、かなりたくさんあるが、19ページ、フクロウが載っているのだが、作品をよく見ていたら、あらわしたり、気持ちを考えたり、知りたくなかったよというような文字が入っている。ほかにこのフクロウを探していくと、そういった道徳につなげていくことができるようなコメント等載せており、道徳との関連というのが日本文教出版のほうの大きな特徴となっていると言えると思う。
西村委員	この道徳マークというのは実際どのように活用するのか。
学校教育課長	学習指導要領で、道徳教育というのは学校や児童の実態などを踏まえまして設定した目標を達成するために、特別の教科の道徳の時間はもちろんだが、各教科、外国語活動とか総合的な学習時間とか特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として、あらゆる教育活動を通じて適切に行われなくてはならないと示されている。 このことを受け、図画工作の時間において、作品をつくったり、観賞したりする際に、道徳、内容項目というのがあがるが、誠実とか思いやりとかそういった内容項目と関連づけて学習ができる部分を明確にすることで、より教科横断的に教科をまたいで道徳教育にも取り組めるように工夫されている。
佐野委員	日文が良いと思うが、作品の掲載の仕方を見ていると、子供たちの写真、必ず複数の児童の写真がたくさんあり、会話をしながら鑑賞できるというふうな工夫がなされている。子供たちの作品ももちろんだが、美術作品の掲載の仕方についても、日文が子供たちにとってすごくわかりやすく適切であると思う。
吉村委員	確かに子供たちにいい作品を見てもらいたいという思いもやっぱりあるので、そういう意味では、日本文教出版の教科書が見ていただきたいような作品が多く載っているように思う。
木寄教育長	小学校音楽の教科用図書は日本文教出版の教科用図書を採択することに異議はないか。
各委員	異議なし。
木寄教育長	次に、小学校の家庭についてのご審議をお願いしたい。各教科書の特徴について選定委員会からの説明をいただきたい。
教育部長	家庭科は、東京書籍と開隆堂あり、まず初めに、東京書籍は、自分の課題というものを家庭科の窓というので見方、考え方という観点でずっと通して発見し、解決する実践を全題材で繰り返し行うことで生活をよりよく工夫する力を育成できるようになっている。 開隆堂については、生活の中で育む力の4つの視点をクローバーで図示して、学びの中で働かせるよう各所に配置している。見つける・気づく、わかる・できる、生かす・深めるの3つのステップで学習の流れが見えやすく示されている。 どちらの教科書についても遜色ないものというような意見が出ている。
佐野委員	どちらも日常生活に必要な知識とか、技能を身につけるようにそういう内容になっていると思う。家庭科はやっぱり自分たちの生活を豊かによりよくするということが目指した内容であると思うが、各領域の内容の特徴についてはいかがか。
学校教育課長	開隆堂出版は簡潔でわかりやすいというのが、一言でいうと特徴になると思う。内容的に簡潔でわかりやすいところであるが、また、東京書籍は情報量の多さです。図や資料が豊富で、子供らが興味、関心を持って学習できるよう工夫されているというのがそれぞれ、簡潔でわかりやすい開隆堂と情報量の多い東京書籍というのが大

	<p>ざっぱに言うと、そういう特徴がそれぞれあるかと思う。</p> <p>東京書籍のほうの10ページ、11ページ、これはお茶を入れるときのお湯を沸かしたりするところであるが、それと、開隆堂の12、13ページ、これをあわせて開いていただくと、どちらも似たような内容が載っているのがわかると思う。例えば東京書籍のほうの10ページ、ガスコンロがあるが、ゴム管のひび割れまで入っている。これは開隆堂にはそこまでない。実生活で割と必要な、こういうところは注意しないとイケないところである。</p> <p>また、東書の右側のページで消火するところであるが、地震が起きたらというところがあり、なるほど、これも今どきの子供は押さえるべき知識ということで重要だと感じた。そういう細かいところが少しずつ少しずつ東書のほうが情報量が多いという形になっている。</p>
吉村委員	<p>情報量という観点から見て、教科書に載っている内容以外にも、どちらも最近のご時世を反映しており、QRコードであるとか、インターネットの教材の補足がされているが、本市の場合は小学校はタブレットが完備されていたりとか、そういうことで十分利用はできると思うが、その辺の環境による情報量の、学びやすさと言おうか、その辺の特徴はいかがか。</p>
学校教育課長	<p>インターネットの活用については、実はこの家庭科だけではなく、ほかの教科でも、今回QRコードがたくさん取り入れられており、家庭科に限定しても恐らく同様のボリュームであるというふうに考えている。</p> <p>ただ、やっぱりインターネットの活用というと、学校の授業で使うだけではなくて、家庭環境にも左右されるので、そういったことを考えると、やっぱり教科書そのものの情報量が多い東京書籍のほうの方がより良いのではないかという意見が選定委員会でも出た。</p>
西村委員	<p>家庭科の場合、授業だけではなく、家に持って帰ってから、実生活の中で習ったことを実際にやってみようということがあがるが、そういう意味で東京書籍のほうの情報量が多く、実際読みながら家でもつくってみようとか、やってみようとかという意味では使いやすいのではないかという気がする。</p>
西中会員	<p>家庭科というのは包丁の使い方とか、あるいは運針の、針の使い方とかいろいろある。そういうスキルというか、家庭科で習得すべき技能というのが、いつも確かめようという巻末にページを設けてきちんとこれで例示している。こういうことが非常に子供たちに役立つのではないかと思う。</p>
西村委員	<p>私が東京書籍のほうが良いと思ったのは、34ページ、35ページあたりのところで、持続可能な暮らしで物やお金の使い方という単元で、売買契約の成立だとかいろいろなお金の支払い方、例えばプリペイドカードとかそういうものについてなど非常に詳しく触れている点である。成年年齢が18歳になるということを考えると、小学生のころからこういったことを具体的にやっぱり知っておいてもらうというのはとても良いことだと思うし、特に資料1ということで消費者センターというのも具体的に詳しく書いてあるので、子供たちが将来、何か被害に遭ったときに、消費者センターのことについても小学生のころから知っておいてもらうといいのではないかと思う。</p>
木寄教育長	<p>小学校家庭の教科用図書は東京書籍の教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>

木寄教育長	次に、小学校の保健についてのご審議をお願いしたい。各教科書の特徴について選定委員会からの説明をいただきたい。
教育部長	<p>保健は5社あり、東京書籍について、これも教科書の学ぶ構成について、各項をステップ1から4の学習活動というように分けている。教科書サイズのA4版を生かして、主体的、対話的で深い学びとなる授業の流れがわかりやすくなっているというのが特徴である。</p> <p>続いて、大日本図書について、初めて保健を学習する3年生で、健康の大切さについて考えることができるような導入が設けられている。主体的、対話的で深い学びに対応した活動も設けて、巻頭に学習の流れの解説が詳しくされて、子供たちへの配慮も設けられている。あわせて、ICTの活用や道徳教育、介護法教育、特別支援教育などにも配慮されている。</p> <p>続いて、文教社について、各単元に動機づけのページが設けられている。みずから課題を見つけ、学習を見通せるように配慮されていて、新しい自分にレベルアップとして記述欄があって、思考力、判断力、表現力が身につくようにされている。脚注のつぶやきくんが児童へのメッセージや豆知識を記載し、多角的な観点から学習意欲の向上を図っている。</p> <p>続いて、光文書院について、何のために何をどのように学ぶのかわかる単元前の導入を新しく設けている。自分ごととして健康課題を捉えて、自分の生活に生かす学びのサイクルの定着を目指し、5段階の学習課程を設けて固定のレイアウトでわかりやすく示している。資料の量を増加したのも特徴で増えている。学習関連の動画も非常に豊富になっているというのも特徴である。</p> <p>最後に学研教育みらい、学研であるが、主体的、対話的で深い学びを実現するために、1時間をつかむ、考える、調べる、まとめる、深めるという流れで構成がある。見方や考え方を身につけて働かせるよう、見方、考え方、科学の目、おうちで地域でというのを随所に掲載して、これも広い範囲で学習ができるような特徴がある。</p>
西中委員	どの教科書も新しい学力観に立った問題解決型の学習ができるようになってきているように思う。児童が見通しを持って解決していくと、そのような教科書、ほとんどそういう形で構成されているが、特に特徴的なものがあれば紹介いただきたい。
学校教育課長	東京書籍、光文書院、学研は、それぞれ各単元の初めに、そこで学ぶべきことが明確に記されているということ、身近な生活における自己の課題を考えて、課題解決に向けたさまざまな活動につながるよう工夫されているなどという意見が出ていた。
佐野委員	保健の教科は、特に自分の命を守ることが最大の課題だと思う。そういう意味では課題解決についてはわかるが、主体的に考えるという視点を考えたとき、特徴的な教科書はあるか。
教育部長	<p>どの教科書についても、主体的、対話的で深い学びというのは意識されている。</p> <p>その中でも、光文書院と学研は、見開きの2ページが1時間の授業というふうに非常にまとまりがある。子供が理解しやすく、よりほかの教科書よりも主体的に学ぶことができるような構成になっているように思う。</p>
西中委員	今のところ、学研と光文書院が2つ取り上げられているようだが、特に2つの教科書に特徴的なものはあるか。
学校教育課長	まず、この5社の中で性的マイノリティーを、LGBTという言葉が明確に使っているわけではないが、それを想起させるものに向けて

	<p>の学習の取りかかりになるようなことが出てきておるのが、文教社と光文書院である。これは結局、選定委員会でも話になったが、そういうような教育をやっていく必要がこの段階であるのかどうかということとかなり賛否が分かれた。そういう意味では、光文書院、学研の2社の教科書の違いでいうと、性的マイノリティーのことを何らかの形で扱っているかどうかということが特徴的になってくるのではないかと考える。</p>
吉村委員	<p>確かに小学校の4年生ごろに、早い子は二次性徴が、特に女子ですけれども、出てきたりする。そのころに教員としても、学校教育でも男女別というのが割とはっきりしてくる。そういう時期に性の違和感というのを覚えてくるというのが最初の兆候であるが、ただそのころはただ単にそういう異性であるとか同性が単純に好き、嫌いでそういうように感じているのか、性的な脳の性と体の性が一致していないのでそういうように思うのかというのが全然わかっていない時期である。そういう時期にあなたはこうだというのはなかなか教えづらいと思う。ある程度、やっぱり中学生ぐらいになったら明らかに二次性徴が出てきて、男女差というのがはっきりしてくるので、説明もしやすいと思うし、保健体育という専門の科も出てくるので、先生方も教えやすいと思うが、小学生の時点でこういうことを教科として学ばせるには、先生方の負担が大きいのではないかと私は考える。だから、小学校でこの項目を扱うのは難しいのではないかなと思っている。</p> <p>ただ、医学的には、本当の意味でのLGBTのお子さんは、二次性徴が始まる前に性を決めてあげてその性に近づけてあげたら良いとは言いが、実際に未成年に医学的な投薬とかが要するようなことをするのは誰が判断するのかという問題がある。未成年の本人の意思だけでいいのかと、そういう問題も非常にあるので、少なくともやはり小学生のまだ自己判断があまりつかない時期では教育は難しいのではないかと考える。</p> <p>もう一点、学研教育みらいでは、全社とも飲酒、喫煙、ドラッグについては同じような量をとって解説しているが、特に学研教育みらいは断り方を載せているというのが非常に良いと思います。ほかの教科書も体に悪いというのははっきり言っているが、実際にどう断ったらいいかというのをシミュレーションするというのが学研には載っているの、その辺は非常に良いのではないかと、お父さん方も参考になるのではないかなと思う。</p>
西村委員	<p>学研教育みらいで良いなと思った点であるが、体の健康だけじゃなくて、心の健康ということをどの教科書も取り上げており、不安の対処の仕方とかそういうことも取り上げられているが、学研みらいの場合は5・6年生の17ページのところで、その流れの中でいじめのことについても投げかけている。そういう意味では、いじめのことについてまで心の健康ということの流れとして触れているのは学研だけのようなので、この点もすぐれているのではないかなと思う。</p>
木寄教育長	<p>小学校保健の教科用図書は学研教育みらいの教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>次に、小学校の英語についてのご審議をお願いしたい。各教科書の特徴について選定委員会からの説明をいただきたい。</p>
教育部長	<p>これは小学校でいうと初めての教科書採択になるので、7社あるが、どれを選ぶかというのはかなり選定委員会でも一番時間がかかったところであるが、まず順番に東京書籍の「NEW HORIZON</p>

Elementary」、特徴は語句をピクチャーディクショナリーという分冊で非常にコンパクトに整理されているというのが一つと、それから、英語で使う音声バーコードで記載されているという、そういう情報量が多い。情報量が多いということはやはり指導力が問われて、英語力が非常に高くないと難しいのではないかなという意見も出ている。

次、開隆堂出版の「Junior Sunshine」、これは短時間学習や他教科と連携した学習も可能な構成で、繰り返しの学習で知識、技能を確かな学力として対話と共同化されて知識、技能を思考力、判断力、表現力につながる構成というふうにはなっている。主体的な学習を生み出す身近な場面の設定がされており、効果的に総合的な学力を高めることも意識しているというふうには考える。

3つ目の学校図書、「JUNIOR TOTAL ENGLISH」ということで、三省堂の教科書が中学のところでも結構レベルが高いというか、文章量が多い。小学校でもやはりそういったところの傾向があるかなというので、音声によるインプットと繰り返しにより児童の気づきを重視している。実際のコミュニケーションとしての英語を使う多彩な活動が設定されていて、スモールステップの読み・書き、目当てと振り返りの欄が設けられていて、主体的な学びができて、自主学習のページも主体的な学びに効果的なものとなっている。

続いて、三省堂の「CROWN Jr.」、これはホップとステップとジャンプの大単元構成が特徴である。まず、ホップでは、目標と学習の見通しがされていて、ステップで聞く・話すという活動を中心に、単語や表現を使って身につける。最後にジャンプで、実際のコミュニケーションとしての場面、グループ活動を行うことで主体的、対話的で共同的な学びができるようになっていく。

続いて、教育出版の「ONE WORLD Smiles」、これは子供たちの主体的な学びを促して関心、意欲を高めるような活動を工夫してある。動画の活用なんかでも無理なく力がつく指導が可能というふうになっている。

続いて、光村図書の「Here We Go!」、現行の補助教材、いわゆる「We Can!」の一番継承が強いかなと感じる。子供にとっては、慣れている感が非常にあるかなと思う。英語の世界に引き込むストーリー性があって、アニメーションも全単元で掲載されていて、歌、他教科との関連、そういうのが充実している。単元をホップ、ステップ、ジャンプの3段階で構成し、巻末に児童が振り返りのために貼るシールが資料でおさえられている。

最後に、啓林館の「Blue Sky Elementary」は、啓林館が英語の教科書をつくるというのはなかなか、中学でもないが、短期間でのインプット、アウトプットの活動で知識、技能の定着というのが促される。目標や評価内容が児童にわかるために、学習の見通しを持った学習が可能である。推測や判断力を伴う活動によって思考力の育成が可能となっている。バーコードによっての語句の読み方やアルファベットの読み書きが復習できるようになっている。

いずれの教科書についても、バーコードかQRコードで音声、動画が活動として見られるということで、これは学校の中でもQRコードやバーコードが使えるような環境というのが、やっぱり英語の中では聞く・話すというのがポイントになってくるので、必修になっている、教科書もいずれもなっているからということで、中学校からの継承を重視したのか、小学校の今の外国語活動のつながりで重視したと

	<p>いう教科書に大きく2つに分かれるような特徴があるかなと考える。</p>
佐野委員	<p>今回英語は7社出てきているが、その中の開隆堂、教育出版、光村、啓林館この4つとほかの3社との内容がすごく違うと思う。これらの特徴について、選定委員会ではどのような意見が出たのか。</p>
学校教育課長	<p>開隆堂と教育出版、光村と啓林館この4社と他の3社で2つに分かれている。4つの教科書については、これまでの小学校の外国語活動の流れを踏まえているのかなと思う。他の3つについては、中学校英語のイメージが若干強くなっているように感じるという意見が多かった。小学校での活動については、これまでの外国語活動の流れをくんだ4つの教科書から選択するほうが良いのではないかなという意見が多かった。</p> <p>他の3つの中で、例えば東京書籍だけは別冊というのがあり、「Picture Dictionary」というものだが、こちらうまく活用できればとは思いますが、内容が多いので、担任が英語を指導するということを考えるとかなり難しいのではないかなという意見も出た。</p>
吉村委員	<p>中学校の教科書に接続ということを考えて、中学の教科書会社がつくっているものが接続に良いのではないかなという意見もあるとは思いますが、初めて英語を習う場合はできるだけ多くの英語に触れ合って、ネイティブのスピーカーの言葉を聞き取って、しゃべれる。単語を書けるとか書けないとかというのは、それは後で良いと思う。できるだけ多くの英語に触れ合って親しむというのが出だしとしては大切だと思うので、やはり教科書としてはむしろやさしい教科書を選んで、英語にたくさんなれ親しむというのが非常に大切だと思う。</p> <p>例えば、外国へ親の都合でしばらく生活した方々とか、幼稚園とか小学校レベルではもう二、三カ月で友達と英語で会話できるぐらいになるが、2、3年して帰ってきて、今までの日本であれば中学校まで英語に触れる機会がないと、やはり書かないと忘れていく。せっかく行っても中学校のころには忘れていくというのが皆さん、保護者の共通する意見で、それを考えると小学校のときに英語にたくさん触れて、その後間髪入れずに読み書きにつながっていくという教育がやっぱり使える英語という意味では非常に大切だと思うので、私はむしろ簡単な教科書を選ぶというのが良いと思うが、いかがか。</p>
西中委員	<p>同感である。本市は1年生から外国語活動、いわゆるALT、ネイティブスピーカーを交えて英語でコミュニケーションを図るというようなことを重視して、1年からやっている。そういうことを受けて考えたときに、英語のシャワーをできるだけ浴びることが非常に大事ではないかと思う。だから、そういう内容の難しい教科書よりも、よりたくさん内容のシャワーを浴びる、そういうことの可能な教科書を選ぶというのが大事ではないかなと思う。</p>
西村委員	<p>中学での英語の教科書が現にあるわけで、今年、小学校を採択して、来年、中学校ということであるが、中学校の教科書がこうだからというのではなくて、今の時点で今の高石の小学生にとってどの教科書が使いやすくて良いのかという観点で、まず小学校の教科書を選ぶことが良いと思う。</p>
佐野委員	<p>難易度にかかわらず、開隆堂、光村、啓林館、これは中学校で重要視されている、各学年においてどのような技能を身につけるかを示したCan Doリストというのがある。そこで各レッスンの目標が示されていることで学習に取り組みやすくなっているというのがとても良いと思う。</p>

西中委員	<p>光村と啓林館、英単語のつづりが教科書に出ているわけある。小学校ではできるだけ英語のシャワーを浴びてコミュニケーションが図れるということを重視で、読み書きというようなことがどうなのかとなるが、選定委員会では英単語、英語のつづりが教科書に出ているということについて、どのように考えているか。</p>
教育部長	<p>今回の小学校の英語の5・6年で教科化されて、その教科化されたことに加えて、書くが出てきているのがすごく大きなことである。今までの外国語活動というものでは文字指導は全くなかったが、小学校の中の5・6年で書くというのが出てきて、書くということについても英単語のつづりを覚えるというところまではないが、必ずアルファベットの文字指導というのは入ってきている。そういった中でいうと、ふだんから音声と同時に文字に親しめるような視覚に訴える工夫というのはやっぱり必要かなというふうには考える。</p> <p>それから、Can Doリストについても、Can Doリストは先ほど述べられた3社はきちっとできているが、特に開隆堂と「Blue Sky」の啓林館については、Can Doリストが非常にコンパクトにおさめられていて、「Here We Go」のほうは、Can Doリストのほうはほかの2社に比べると少しコンパクトさに欠けているかなという部分というのが、私は見ながら感じたところである。</p>
西村委員	<p>QRコードというのがどこでも用いられているということであったが、どの教科書も活用しているにしても、特に特徴的というか、使い勝手のいいものはどれか。</p>
学校教育課長	<p>QRコードについては、今回の教科書でどこの会社も活用して聞く活動というのを充実させているのでほぼ横並びであるが、選定委員会の中では学校図書とか啓林館とかそのあたりが充実しているのではないかなという意見が出た。</p> <p>こういった聞く・話すという活動を充実させる、そういう印象を持つところ、英語と触れ合う、親しむ、コミュニケーション力を高めるというのは本市の目標であるので、QRコードだけではなく、それもトータルに含めてそういったものにとということになると、特に啓林館の、「Blue Sky Elementary」、短い文の繰り返しになっていて、その量も非常に豊富になっている。ちょっと見てみたいと思うが、6年の教科書42、43ページ、「My Summer Vacation」というところに、I went to the mountainとかthe beachとかthe lakesとかこういったこと、右のページでもI enjoyedということで何回も何回も繰り返す特徴が出ている。これはこのページだけではなく、短い文を本当に繰り返し指導する。その量も豊富になっており、QRコード等活用しながら、こういったことも踏まえて、担任が指導する際には活用しやすいものとなっているのではないかなと考える。</p>
吉村委員	<p>小学校の外国語の授業は、実際にコミュニケーションができるということが非常に重視されているので、特に啓林館では単に伝えるだけじゃなくて、6年の90ページ前後のところでは中学校でやってみたいことの手紙を書きましょうとか、何をやりたいか言えるかなとか、そういうふうやりとりのあるペアワークの場面が結構設定されていて、こういうのがやはり話せる英語につながっていくのかなという気がする。この辺は非常に良い教科書ではないかなと私は思う。</p>
西中委員	<p>英語を指導するという立場から考えると、小学校の先生方というの</p>

	<p>は免許の中に英語の指導法というのではないわけであり。少なくとも一般教養で、中学校、高等学校、大学と英語を学習はしてきているけれども、指導するという英語のそういう授業は受けていないわけで、専門性がないという。来年から英語を小学校の現場でやっていくというのは非常に難しいことだと。小学校の先生方もかなり研修をして、もちろん助けになるALTの補助もいただいてやるわけであるが、なかなか難しい。</p> <p>そういう中で啓林館の「Blue Sky」は割合、この順番に教えていったらできるというか、教えるのにやさしい教科書というか、専門性から見たらどうかということはあるが、このままずっと教えていったら何とかやっていけるという点では、「Blue Sky」が非常に良いのではないかと思う。</p>
木寄教育長	<p>学校英語の教科用図書は新興出版社啓林館の教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>次に、小学校の特別の教科道徳についてのご審議をお願いしたい。各教科書の特徴について選定委員会からの説明をいただきたい。</p>
教育部長	<p>今回の特別の教科道徳について、2年前に小学校の教科書が採択されて使われて始めている。そういった中で、今回の保護者代表も、それから、学校の校長先生の代表の選定委員から言われたのが、今回の教科書の採択で教科書が変わるということで子供たちが戸惑ってしまうのではないかということが危惧されるという意見があった。そういうことから、説明させていただきますが、まだ2年しか経過していないということと、現在使用している教科書が、教員にとっても教材研究を続けている途中で、また新しい教科書が、会社が変わることでまたやり直しかという、そういうような意見もあったということを踏まえて、少しお話をさせていただきます。</p> <p>まず、東京書籍については、限られた時間の中で考え議論する時間が確保できるようにということで、全体の構成、各教材の工夫がされている。見通しを持って主体的に学習することができるようになっている。</p> <p>学校図書については、気づきと学びの2分冊の構成で、気づきは道徳的な価値や課題との出会い、主体的に課題を発見する。学びは気づきをもとに自己のよりよいあり方を考え議論することが狙いとなっております。ポートフォリオ機能の強化が目立つかな。いじめ問題、情報モラル等の課題対応の教材も充実している。</p> <p>教育出版については、いじめ問題、生命尊重、情報モラルを重点テーマに、一人一人の児童が考え議論することができるように構成されている。</p> <p>光村図書については、主体的、対話的な学びから深い学びに導き、豊かな道徳性を育むような構成がされていて、考え議論するを促す多様な教材、学びを支える手引が工夫の一つとなっている。年間の構成が児童の成長と学校生活の流れに沿っており、現代的な課題と道徳の学びを結びつけるようなユニット構成になっている。</p> <p>日本文教出版は、学びの流れが見え、いじめをなくす、心の成長を記録する道徳ノートの3点が特色となる。特色を通じて、児童の主体的な学びを促して、授業と社会に根差した道徳教育というのが実現できるのではないかという構成である。</p> <p>光文書院は、低学年の文章量を減らし、3年までは全て振り仮名を入れてある。カラーユニバーサル監修などで全ての子供たちが使</p>

	<p>いやすいように配慮されている。問いを持つ、考える、まとめる、広げるといふ4つの構成で問題意識を持って、考え学習したことをまとめて実生活に広げる授業の流れがわかりやすく示されている。</p> <p>学研教育みらいについては、児童の中から湧き上がる思いを大切に編集されており、先入観なく教材と出会えるような主題名の扱いに配慮されている。深めよう、やってみようなど4種類の学びのページで児童の学びを多様に支援できている。現行の教科書からの工夫も施されているけれども、主題名というのではなく初めから教材の名前はあっても、道徳の項目がないというのが学研の従来からの特徴である。</p> <p>最後に、廣済堂あかつきについても2分冊であるが、本冊のほうではみんなで考え、話し合う活動を行い、主体的、対話的な学習を通じて多面的、多角的な思考を促すようになっており、別冊では自分の考えをまとめる活動により自分を見詰める、考える機会の場面を設けている。分冊の道徳ノートは内容項目ごとに整理できる構成となっているけれども、自分の考えをまとめる自由記述欄は活用の幅を広げようになっているということで、これも前回の採択のときからは改善がされているというのが特徴です。</p> <p>前回採用されたのは日本文教出版の教科書であった。教材研究を進めるといふ観点とか、それから、先ほどの分冊等についての議論は前回もあったが、やはりここについても、日本文教出版は日本文教出版で改善もされていて、より使いやすくなっているのではないかといふような委員会からの意見もあったということもあわせて報告させていただく。</p>
西中委員	<p>2年前に道徳が、今までは教科ではなかったが、特別の教科ということでそれに伴う教科書の採択に向けて検討した。1教科であったが、かなり時間をかけてやったように私は記憶している。そういう中で日文を選んだわけであるが、先生方も初めての教科、道徳ということで教科書を使っているいろいろな研究をしていて、これについてはかなり教科書に親しんでいるわけで、これを変えるということになったら、何か特にこれに問題があるとか、あるいは教えにくいとか批判とかそういうものがあれば、私は変えるべきだと思うが、なければ、2年前にいろいろ検討してやった、また新しいやつを拝見しても、かなりそういう面では改善もなされているし、非常に良いのではないかと思う。</p>
学校教育課長	<p>学校現場の意見であるが、今のところ、特に使いにくいであったり、そういった意見が多く上がっているという報告はない。</p>
佐野委員	<p>2年間の活用で使いにくいであるかといふような否定的な意見がないということであれば、児童がなれているという点、また、教材研究についての現場の負担軽減といった観点でも、日文の道徳の採択が適切ではないかなと思う。</p>
木寄教育長	<p>小学校特別の教科道徳の教科用図書は日本文教出版の教科用図書を採択することに異議はないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>以上をもって、小学校の全科目を決定した。</p> <p>小学校国語は学校図書「みんなと学ぶ小学国語」、小学校書写、学校図書の「みんなと学ぶ小学書写」、小学校社会は日本文教出版「小学社会」、小学校地図は帝国書院「楽しく学ぶ小学生の地図帳」、小学校算数は東京書籍の「新しい算数」、小学校理科は東京書籍「新しい理科」、小学校生活は日本文教出版「私と生活」、小学校音楽は教育芸術社「小学生の音楽」、小学校図画工作は日本文教出版「図画工</p>

	作」、小学校家庭は東京書籍「新しい家庭」、小学校保健は学研教育 みらい「みんなの保健」、小学校英語は新興出版社啓林館「Blue Sky Elementary」、小学校特別の教科道徳は日本文教 出版「生きる力」。 以上が令和2年度使用小学校教科用図書である。
--	--